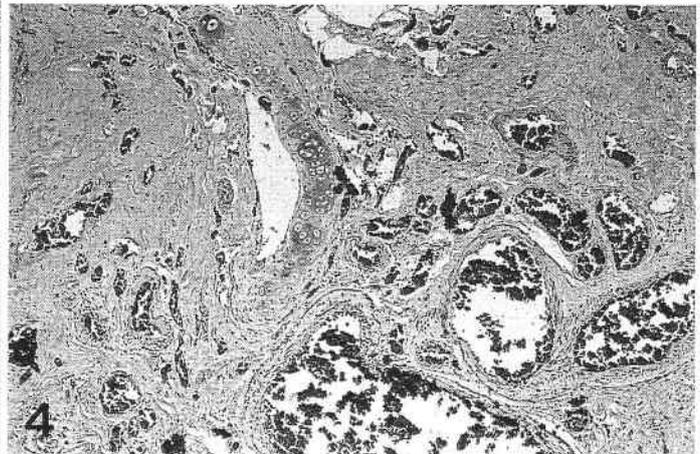
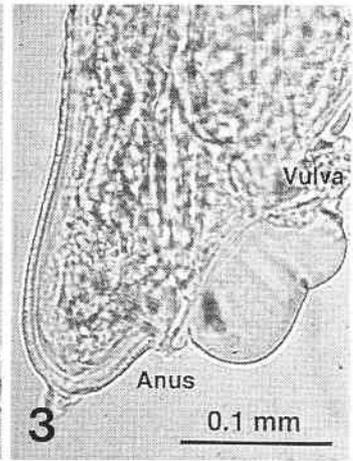
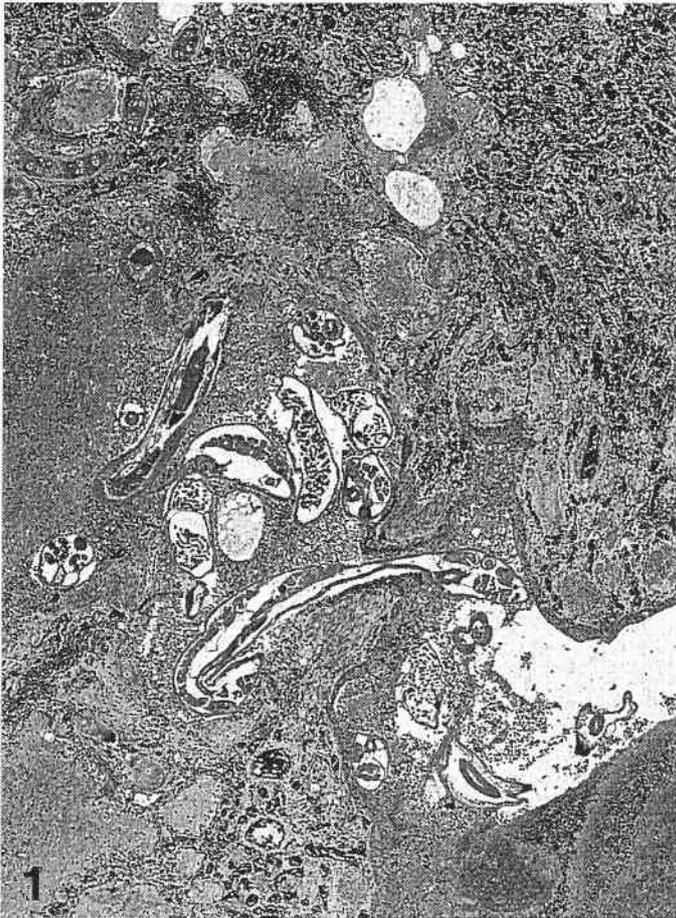


イルカの肺

大阪府立大学農学部獣医学科獣医病理学講座出題 第40回獣医病理学研修会標本 No. 761



動物：バンドウイルカ *Tursiops truncatus*, 雌, 成獣。

臨床事項：1999年1月19日に捕獲され、同年2月5日朝、飼育プールで死亡を発生。翌日剖検した。

剖検所見：体長262cm, 栄養状態不良, 肺全葉にわたる高度うっ血水腫, 気管および気管支に多量の泡沫液貯留, 糸虫感染を伴うカタル性腸炎, 心萎縮, 腋窩リンパ節の腫大, 妊娠子宮(体長61cmの胎仔)が認められ, 胃に内容物はみられなかった。切り出し時, 時折肺細気管支は灰白色凝固物で閉塞され, 白色線維化巣も散見された。

組織学的所見：肉眼的に灰白色凝固物で閉塞されていた部位に一致して, 細気管支内に肺虫が認められた。気管支および肺胞腔にはフィブリンと蛋白成分に富む漿液の滲出, 好酸球, 好中球, マクロファージおよびリンパ球などの炎症細胞の浸潤が認められ, 気管支上皮の扁平上皮化生も観察された(写真1)。湿標本から得られた肺虫は, 口腔を持たず, 雌の尾部には尾端乳頭を, 肛門と腔の間に膨らみを有することから *Torymus* 属と同定された(写真2, 3)。

一方, 肉眼的に白色線維化巣として観察された部位では, 線維化とともに大小の血管増生が顕著で, 一部の器質化した細気管支内にも小型の血管増生が認められた(写真4)。これら血管は免疫組織学的検査で第8因子関連抗原および平滑筋アクチンで陽性を示したが, 血管内皮または平滑筋単独の異常な増殖は認められなかった。

考察：バンドウイルカの肺にみられた血管増殖性病変を Turnbullらは血管腫症 angiomasia と報告しており (Vet Pathol 36: 28-34, 1999), 肺および肺に関連するリンパ節に好発するとしている。本例の血管増殖性病変は肺門および腋窩リンパ節にも認められ, 彼らの報告に一致していた。血管腫症の発生原因については明らかでない。本例の寄生虫性気管支肺炎では, 肺胞内に多量のフィブリンの滲出と, その器質化・陳旧化・血管新生が見られ, 血管腫症との関連性が疑われた。

診断名：バンドウイルカの肺虫による気管支肺炎および血管腫症。